

第6学年 総合的な学習指導案

屋久島町立神山小学校

指導者 坂元 達哉

1 単元名 「生かそう屋久島のみ力 創ろうわたしたちの未来」

2 単元の目標

- 屋久島の魅力や課題，それらと人・もの・こととのつながりについて理解し，未来の屋久島や将来の自分の姿を思い描きながら自分たちの活動をまとめ，発信することができる。
【知識及び技能】
- 自然・産業・伝統など屋久島の魅力やSDGsの取組を幅広く捉え，課題を見出し，解決するための方策を考えたり，必要な情報を整理・分析したりしてまとめることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
- 屋久島の未来について他者と協働して積極的に社会参画し，将来の自分について理想の姿を思い描き，それに向けて行動することができる。
【学びに向かう人間力，人間性等】

3 単元について

(1) 教材観

これまで児童は，総合的な学習の時間に，3年生で地域のたんかんを題材として体験活動を行い，4年生でレンジャーと屋久島の自然について調査し，5年生で屋久島伝統の野菜かわひこを栽培し，広める学習をするなどしてきた。さまざまな学習を通し，探究的な見方・考え方を働かせ，目的や根拠を明らかにしながら課題を解決する力を身に付けてきている。

本単元は，屋久島の魅力や課題について情報収集したり，それらを整理・分析したりしながら，屋久島の未来像について考える活動を通して，屋久島の魅力や課題，それらと人・もの・こととのつながりについて理解することができるようになることをねらいとしている。また，屋久島の魅力や課題の解決方法，未来の屋久島像を他者と協働しながら粘り強く考えることもねらいとしている。

さらに，本単元の学習は3学期の「未来へ向かって歩きだそう」へと発展させ，自分の生き方の学習と深くつながっていく。

(2) 児童観

本学級の児童は，第3学年では，屋久島の特産品や生き物について，第4学年では，レンジャー体験を通し，海や山の課題について，第5学年では，屋久島の伝統野菜かわひこについて学習してきている。屋久島の環境が好きで，この環境を守り続けていきたいという強い思いをもっており，環境保全に対する関心が高い。

これまで，「課題に気付き，解決策を考え，実行し，自分たちの取組を広める」という経験を何度も繰り返し行ってきており，総合の学習への意欲が高い。自分たちの活動をもっと多くの人に知ってもらい，さらに，一緒に活動してほしいという思いをもっている。

(3) 指導観

児童は，修学旅行で鹿児島本土を訪れた際に，SDGs 17項目に当てはまる活動や取組を調べ，その取組が屋久島でも応用できないか考え，屋久島でできるSDGsの取組である「屋久島型SDGs」作成へ向け活動している。

これまでの経験や調べ学習等を通して見えてきた屋久島の課題を挙げ、その課題を解決する手段を考えていく。その過程で、「もっと知りたい」「本やインターネットに載っているものではない課題を深く知りたい」という思いから、屋久島のことをより知っている専門家に焦点を当て、ゲストティーチャーとして来てもらったり、電話でインタビューしたりする活動を設定する。専門家から話を聞くことで、児童が気付いていなかった課題について深く学ぶことができ、課題を身近に感じながら、解決する手段を専門家と一緒に考えていくきっかけづくりにもなる。

また、課題解決の手段として、自分たちにできることを考え、実際に行動していくとともに、児童だけでできないことについては、地域の方や保護者の協力を得ながら活動していく。自分たちだけでは困難なことでも、周りの賛同を得ながら協力して取り組めば、課題を解決することができるという経験を積ませる。そして、自分たちにとっての「理想の屋久島像」を思い描き、その実現に向け、具体的に自分たちにできることを考え、屋久島の新たな魅力や理想の屋久島像を発信する活動や場を設定する。

これらの活動を通し、将来の自分の姿を想像し、屋久島の魅力を守り、さらに発展させられるよう、考え、行動できる姿を目指す。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

公平性・・・屋久島の未来を考え、今ある伝統行事や自然環境を次の世代に残していくことが大切であること。

相互性・・・屋久島の自然環境を守りながら、魅力を高めることが地域を守ることにつながり、さらには地球を守ることにつながること。

連携性・・・友だちや保護者、地域の方と協力しながら活動に取り組み、困難を乗り越えられること。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

屋久島の未来像を思い描き、それに向けて自分にできることを考える力。

他者と協力する態度

保護者や地域の方、クラスの友達と協力し、テーマを絞って探究していく態度。

つながりを尊重する態度

屋久島の自然・産業・伝統・人とつながりをもち、将来屋久島を支える活動をしていく態度。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

将来のことを見据え、これまで引き継がれてきた伝統や産業を未来につなげる意識をもつ。

幸福感を大切に

今あるものに価値を見出し、それらを大切にしていく。

・達成が期待される SDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 3 気候変動に具体的な対策を
- 1 5 陸の豊かさも守ろう

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 屋久島の魅力や課題,それらと人・もの・こととのつながりについて理解している。</p> <p>② 未来の屋久島や将来の自分の姿を思い描きながら自分たちの活動をまとめ,発信している。</p>	<p>① 自然・産業・伝統など屋久島の魅力やSDG sの取組を幅広く捉え,課題を見出し,解決するための方策を考えている。</p> <p>② 必要な情報を整理・分析し,まとめている。</p>	<p>① 屋久島の未来について他者と協働して積極的に社会参画している。</p> <p>② 将来の自分について理想の姿を思い描き,それに向けて行動している。</p>

5 単元の指導計画

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1 学校や家庭で実践されている SDG s の取組について意見を出し合う。	○ 自分たちが実践している SDG s 17 項目の身近な取組を明確にするために,これまでの取組や生活を振り返り,SDG s 17 項目のどれに当てはまるか考えさせる。	イ①(思判表)
2 修学旅行を通して見つけた鹿児島県の SDG s の取組について話し合い,情報を共有する。	○ 自由に意見交流をするため,児童が見つけた鹿児島県での様々な取組を,ロイロノート共有機能を使い,交流させる。 ○ 出た意見を整理するために,SDG s 17 項目に当てはめて考えさせる。	イ②(思判表)
3 屋久島で SDG s の取組を行うにはどのような行動が必要か話し合い,屋久島でできる取組について見通しをもつ。 ・ 鹿児島は公園があったり,大きいお店があったり土地を有効活用していたけど,屋久島は放置された畑がたくさんある。何かに使えないかな。 ・ 荒地を再生させて伝統野菜を植えられるかな。 ・ 太陽光を使って発電している施設もあったて,CO2 排出量が少なくて,環境にいいと思った。	○ 鹿児島県での取組を参考に,屋久島でも似たような取組ができないか見通しをもたせるために,出された意見をもとに,実践できるかどうか,話し合いをさせる。 ○ 屋久島らしい取組を考え,焦点化させるために,屋久島の特徴や課題を踏まえ,具体的な取組を考えられるようにする。 ○ 現状を把握するために,インターネットや本などから情報収集をする。 ○ それぞれの取組の原因や目的を明確にするために,ESD グローバルアドバイザーから助言をいただき,自分たちの活動を整理・分析する時間を設定する。	ア①(知・技) イ②(思判表) イ②(思判表)
4 課題を焦点化し,定義づけする。それぞれの取組について原因や目的を整理する。(問題分析・目的分析) 【荒地再生プロジェクト】 ・ 荒れた土地を再生させて,屋久島の伝統野菜を育てる活動をしたい。 ・ 地消地産ができていい活動になると思う。		
5 現状を知り,解決策を考える。 【荒地再生プロジェクト】 ・ 屋久島や自分たちの住む地域にはどれくらいの荒地あるのだろうか。 ・ 荒地が増えるとどんな影響があるのだろうか。 ・ 子どもだけでできるのかな。 ・ 荒地を耕すためには,お金が必要だ。どうやったらお金を集めることができるかな。	○ 現状を知るために,専門家をピックアップしておき,児童に紹介できるようにしておく。 ○ 依頼は事前に配布した「電話のかけ方」を参考に自分たちで行えるようにする。 ○ ねらいを確認するためにゲストティーチャーと事前に打ち合わせを行う。	ウ①(主体的)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒地を有効活用する方法を考えよう。 ・ 荒地を耕しても、そのあと継続的に使っていくためにはどうすればいいかな。 		
<p>6 様々な関係機関と連携しながら自分たちの活動をまとめ、発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの活動をもっと広めることで、多くの人の行動を変えるきっかけにならないかな。 ・ この活動を継続させていくことで将来の屋久島はもっとよいまちになっていると思うな。 ・ 将来のために、自分たちにできることを考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「電話のかけ方」「インタビューの仕方」等を確認させ、積極的に関係機関とつながれるようにする。 ○ 将来の自分をイメージできるようにするため、これまでの学習を通して気づいた新たな価値、SDGsを意識した行動宣言などを行う。 	<p>ア②(知・技) ウ②(主体的)</p>

6 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 自分事として捉える課題を設定できたことで課題解決に向け、関係機関に連絡を取ったり、話し合いを重ねたりする姿が見られた。友達や保護者、地域の方、関係機関と連携し、活動に取り組んだことで、屋久島の未来を具体的にイメージすることができた。自分たちがしてきた活動に対して「屋久島だけでなく世界に広げていきたい」といった感想も見られた。
- 課題設定に時間がかかったが、試行錯誤しながら、自分事として考えられる身近な課題を取り上げ、活動に取り組むことができた。1人の思いだけでなく、何度も話し合いを繰り返し、意見を出し合うことで少しずつ課題が焦点化され、みんなが納得したうえで活動に入れたことが、粘り強く課題解決へ向け活動できた要因と考える。
- 課題を具体的に定義づけするために行った問題分析、目的分析が有効だった。課題はわかったが、具体的にどのような行動をしていけばよいかわからなかった。この分析を行ったおかげで、今後の取組への見通しがもて、より積極的に行動する姿が見られた。
- 荒地再生にはお金がかかることを知り、少しでも資金を集めようと、給食で出た牛乳パックのゴミを使い、子供向けのおもちゃを作成し、フリーマーケットで販売した。同時に自分たちの活動も宣伝し、共感してくれた方がおもちゃを購入してくれた。自分たちの活動に必要なものを考え、積極的に行動することができた。
- 関係機関へのインタビューや専門家を招いての学習を通して、より深く学ぶことができた。児童が直接相手方に連絡を取るようにしたことで、自分たちの取組を簡潔に説明するにはどうすればよいか相談しながら文章を作成したり、相手の都合を聞くために言葉遣いに気をつけたりするなど、外部と接触することが少ない中で、相手意識をもって接するいい経験となった。専門的な話を聞くことで、自分の考えが広がり、今後実施していく課題解決へ提案も豊かな発想が生まれるのではないかと期待がもてた。また、事前に専門家の方と打ち合わせ行ったことも、学習の充実へとつながったと考えられる。

(2) 今後の課題

- 本校のESDの取組は、学校全体で行っている。この取組を継続させていくために、ESDの視点でどのような児童の育成を目指すか、カリキュラム等に明確に示し、全体で共有していくことが必要である。
- 各学年での学びがその年で終了するのではなく、これまでの学習で得た資質・能力を活用しながら、次年度へと生かしていけるよう学んだことの振り返りを行い、児童本人にどのような力がついたか確認する場を設定したい。

<p>6年【めざす児童像】持続可能な社会をめざし、協働して課題解決に取り組みむとともにも、地球の未来や屋久島の未来、自分の未来を想像し、それに向けて努力することができる。</p> <p>【探究課題】屋久島の過去・現在・未来をつなぐ。今までの学びから描く、自分の未来像・屋久島の未来像</p> <p>【単元の目標】屋久島の特色について探求的な活動を通して、屋久島のすばらしさや自然、人間の相互の関わりを改めて深く知ることができる。今までの学びを生かして自分の未来像・屋久島の未来像を考えようとするができる。友達や地域の方、様々な連携機関等の他者と協働しながら、課題解決に向けて取り組もうとすることができる。</p> <p>【単元名】生かそう屋久島のみ力 創ろうわたしたちの未来 「鹿児島のみ力って何だろう」</p>					
小 単 元 1	<p>導入 鹿児島市内でいったことある場所、知っていることなどを出し合おう。</p> <p>課題の設定 修学旅行で、学びたいことを考える。(屋久島との違い・鹿児島島の特色・歴史・文化)</p> <p>※SDGs講話:杉下さん</p>	<p>情報の収集 修学旅行前の下調べ(自主研修・施設・交通)・薩摩義士について学ぶ。 修学旅行。(見学・体験・食文化・写真撮影等) 整理・分析 修学旅行を通して学んだこと、初めて知ったことを整理する。</p>	<p>まとめ・表現 修学旅行で分かったこと、感じたこと、学んだことを5年生に伝えるようにまとめる。</p>	<p>整理・分析 屋久島との違いについて意見を出し合う。(環境・伝統・文化など) 改めて屋久島の環境を見つめ直し、修学旅行を通して気付いた環境を守る活動や工夫について話し合い、整理する。(国:聞いて考えを深めよう)必要な情報を収集する力</p>	<p>課題の設定 屋久島の魅力を発見し、広めたり、深めたりして、自分たちでできることを考えていく。 屋久島の課題について考え、自分たちでできることを考えていく。 (家:持続可能な社会を生きて)情報を整理・分析し課題を設定する力</p>
小 単 元 1	<p>情報の収集 自分の興味のある分野に別れ、その分野の専門家や関係機関に話を聞く。 屋久島の魅力や課題についてインタビューする。(9・10月中に実施)(国:いちばん大事なものは)自分の考えを広めたり、深めたりする力</p>	<p>整理・分析 インタビューを通して、分かったことについて分類・整理する。(問題分析:目的分析) まとめ・表現 分類・整理した魅力や課題を他の班と共有する。</p>	<p>課題の設定 屋久島の課題を解決するにはどうすればよいか。 整理・分析 課題解決に向け、専門家に相談したり、関係機関に協力してもらったりして解決策を考えていく。</p>	<p>まとめ・表現 自分たちの考えた解決策をまとめ、他の班と共有し、提案したことを実行に移す。 地域の方、保護者、専門家の方と協力し、解決に向け行動する。 自分たちの取組を学習発表会等で発信する。(国:私たちにできること)伝えたいことを明確にし、自分の考えが伝わるように表現する力</p>	
小 単 元 2	<p>導入 今までの学びを振り返る。将来の夢について語る。</p> <p>課題の設定 ①これまでの学びを生かして自分がどういう将来を描くか考える。②将来の理想の屋久島の姿を考える。</p>	<p>情報の収集 ①人生の先輩や家族にインタビュー。職業や社会貢献について調べる。②屋久島の成長でできる分野や問題点を調べる。※①と②を連動させ、屋久島に貢献する自己を追求。</p>	<p>整理・分析 ①自分の未来の姿を考える。 ②SDGsの中で自分が屋久島や世界に貢献できることを考える。視点を決めて整理・分析する。(社:日本とのつながりの深い国々)他国の文化価値観、課題等を理解する力</p>	<p>まとめ・表現 ①卒業文集・卒業制作・卒業メッセージ等で思いをまとめる。学習発表会で発表する。(学内・保護者・HP)(国:大切にしたい言葉)事実・感想・意見を区別して表現する力</p>	<p>振り返り・発展 ①将来のために、さらに学びたいことを考える。②島内や世界の社会貢献活動に参加する。(ジョイセフ・ユネスコ)行動宣言 (理:世界の人々とともに生きる)世界情勢を知り、自分のできることを考え、行動する力</p>
<p>【単元の振り返り(期待する姿)】様々な人と連携して取り組むことで、課題解決につながることができた。屋久島の明るい将来像を描き、それを達成するために自分のできることを考えていこうと思う。</p>					